

ヘルメットが頭を護るのは、衝撃エネルギーの処理で、それは「**衝撃吸収の処理**」(衝撃吸収性能)と「**衝撃をかわす処理**」(かわす性能)の2つの働きが、エネルギーを適切に処理することによって頭は護られます。

衝撃吸収性能というのは、エネルギーをシエルの表面から頭までの限られた空間で処理する必要があるため、いかなる技術を用いようとも限りがあります。限界を超えた衝撃に対し、衝撃吸収性能だけでは、頭は護れません。それでも、護る可能性を高めているのが、「かわす性能」です。衝撃が大きくなればなるほど、「**かわす性能**」が重要になるのです。「かわす性能」は、その形状などヘルメット規格には、ほとんど定められていません。ヘルメットメーカーは、衝撃吸収性能に関して、規格に基づき、その性能を維持したものを販売する義務があります。しかし、「**かわす性能**」に関してはその定めはありません。

規格を満足すれば、フォーム・強度・収納物、あらゆる選択肢があります。しかし、そのすべてが「かわす性能」を満足させることに繋がるとは限りません。

アライは、頭を護る性能で世界を目指してきました。世界を目指した40年以上前から、実戦に基づいた経験を生かし、あらゆる改良を重ねてきました。その結果、「かわす性能」の意義に着目し、衝撃吸収性能だけでなく、「**かわす性能**」を引き上げる、真に頭を護るヘルメットを求め続け、それをカタチにしています。

今回も引き続き、アライが「**かわす性能**」の向上に何をしてきたのかお話しいたします。

【かわす性能】頭を護るための取り組み③

「かわす性能」をも引き上げる

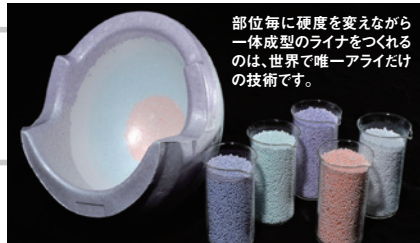
多段発泡 ライナ



緩衝ライナは、衝撃吸収性能の主役ですが、アライの場合、「かわす性能」向上のために、世界中どこでも採用していない特殊なライナを使用しています。

当然のごとく、アライの「かわす性能」には、世界で最も厳しいとされる規格に余裕を持ってクリアする衝撃吸

収性能が必要です。衝撃吸収試験では、角度により、衝撃を受ける面積は異なるので、受ける面積が狭ければ、衝撃緩衝ライナを厚くすることが必要になります。それでは、「かわす性能」を活かす理想のフォーム



を維持することはできません。

アライの多段発泡一体成型ライナは、部位により細かくその硬度を変化させています。受ける面積により硬度を変化させることにより、「かわす性能」を活かすフォームを追求し続けることが可能となるのです。

強靱なシェルと多段発泡一体成型ライナの組み合わせは、無数の種類があります。アライは、各モデルサイズ毎に、最適なシェルの構造とライナの細かなセッティングを繰り返し行い、できる限り軽くコンパクトでありながら、「かわす性能」に優れたモデルをつくり上げています。

そして、一体成型の多段発泡ライナは、実際の衝撃吸収性能で理想的な働きをします。ヨコ方向から受ける衝撃に対し、硬度の変化に途切れることなく、衝撃を連続して受け止めることができるからです。